

心は外へ！



としょかんのわたしたちから、小学生のあなたへ

がっこうのお休みが、長いあいだつづいていますね。としょかんもおやすみしています。外であそびたい。友だちにいたい。かぞくと出かけたい。走りまわりたい。たのしいこと、ぜんぶしたい！そんなきもちを、みなさんはいま、じっとがまんをしていますね。いまは、からだは、おうちにいなければいけません。たいくつしたとき、さみしいとき、1さつの本をよんでみてください。そうすれば、みなさんの心は、どこへでも行くことができます。ためしてみてくださいね！



やかまし村の子どもになりたい！

『やかまし村のこどもたち』
『やかまし村の春・夏・秋・冬』
『やかまし村はいつもにぎやか』

アストリッド・リンドグレーン／作 岩波書店

スウェーデンのいなか、家が3げん、子どもが6人しかいない村でのくらしが、あたたかく、明るく、生き生きとえがかれています。

中学年から

わたしがいちばんあこがれたのは、冬のそりあそびやスケート。ジンジャークッキーをやいたりする、楽しいクリスマスのところ。少しでも作品の世界をまねしようと、じぶんの家のたたみとふすまのへやを、本をまねして、かざりたてた思い出がよみがえります。

やかまし村のみんなといっしょに、ひろいしぜんの中を、思いっきり走りまわってみませんか？ (かわい)



あなたのすきな国はどこですか？

『ローワンと魔法の地図』

エミリー・ロッド／作 偕成社

ある日、リンの村に流れてくる川の水が止まってしまい、その原因を見つけるため、選ばれた七人が山へ向かうことになりました。

山にはいくつもの危険がひそんでおり、気弱な少年・ローワンは恐怖にふるえながらも勇気をふりしぼり、あらゆる試練に立ち向かいます。

あきらめないことの大切さや本当の心の強さについて、ローワンの成長とともに知ることができる物語です。

中学年から

こんなふうに、本の中では、すきな国、行ってみたい国を自由におとずれることができます。

せかいのごほんの本『ロシアのごほん』（銀城康子/文 農文協）をみて、あこがれのロシアに行ったら、ロシア料理を食べたいなと思い、外国のこどものくらしの本『おしゃれ大好き！ブリュヌ 世界のともだちフランス』（MIKA POSA/写真・文 偕成社）をみたら、フランスのパリに行ってみたいな、とか。

「わたしがあの国に行ったら…」と、そうぞうをふくらませています。(しまだ)

みんなに

中学年から

「ことば」はいつもあなたのそばに

いちねんせいから

声を出せば元気になれる...かも！

しんぱいやイライラもきえていく...かも！

歌を歌うのももちろん楽しいけれど、詩（し）や、俳句（はいく）をよんでみるのもいかが？

『のはらうた』（くどうなおことのはらのみんな／作 童話屋）で詩をかいたのは、ちょうちょ、かまきり、かえるや月。のはらでいっしょにあそんでいるみたいなきもちになれるかも。

『ことばあそびうた』（谷川俊太郎／詩 福音館）は、体をうごかしながらよんでみたい！

『日本語を味わう名詩入門シリーズ』（あすなろ書房）で、ゆうめいな詩をたっぷりと。おうちで読みあうのもいいですね。

たくさん読んだあとは、自分でつくってみてはいかが？『詩をつくろう 全3巻』（汐文社）『小学生のための俳句入門』（くもん出版）が、わかりやすい。

ことばは自由です。どんなきもちもがまんせずにかいてみよう！あなただけのカッコいい「ことば」がうまれてくるかもしれませんよ。（いしだ）

世界をこの手につかめ！

『マップス 新・世界図絵 MAPS』

アレクサンドラ・ミジェリンスカ
ダニエル・ミジェリンスカ／作
徳間書店

みんなに

ちずとイラストで世界の国々をしょうかいした、たて38センチの大きな大きなちず絵本。

世界の42の国の、れきし、いきもの、しょくぶつ、たてもものなど、いろんなことがひとめでわかる。

楽しいイラストで、知らない国をじっくり旅してみよう。（のざき）

じぶんのあたまでかんがえる

いちねんせい

きいろやピンクは、なんとなくウキウキ。

『ももいろのきりん』（中川李枝子／作 福音館書店）を、いちねんせいのみなさんに。

るこは、はさみとクレヨンで、ピンクのきりんのキリカをつくり、やまのどうぶつたちのいろをぬりなおして、みんなのいえをつくりまします。ところがカラフルになりますよ。

六年生には写真絵本。長い休みで、勉強することや学校に行くことの意味を考えた人もいます。

校舎も机もないアフガニスタンの学校で、子どもたちにとって、勉強はよろこび。ラン



六年生

ドセルが、子どもたちに生きる力を与えている。『ランドセルは海を越えて』（内堀タケシ／写真・文 ポプラ社）の写真という表現が、心をうちます。

みんなに

さいごに、『ピーターラビットの絵本』（ピアトリクス・ポター／作 福音館書店）

ピーターのお父さんは肉のパイにされてしまっていたりして、じつはきびしい世界。

わたしのお気に入り、マクレガーさんにつかまったピーターたちをあつというまにたすけ出したベンジャミン・バニー（父）と、ねずみのふうふに「ねこまきだんご」にされてしまった子ねこのトムです。（ちきり）